

2024_0701「与那国空港着陸（動画）」日々の理科 3616号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

新石垣空港から与那国空港までは、飛行時間わずか30分足らずでした。与那国空港は島の北側（東シナ海側）にあり、小さな空港なので、もちろん滑走路は1本です。滑走路は1本でも、通常滑走路番号は2つ付与されています。「滑走路番号（指示標識）」というのは、滑走路の両端の路面に記されている2桁の番号です。離陸時に機窓から見えることもあります。この2桁の番号は、実は「方位」を表していて、10度刻みで01～36のいずれかの番号です。

例えば、滑走路がほぼ南北に向いている場合は、南側から進入する場合は「36番滑走路」、北側から進入する場合は「18番滑走路」となります（中部国際空港がこれに当てはまります）。滑走路が並行して2本以上ある場合（たとえば関西国際空港や羽田空港）は、番号のあとに「L/C/R」などの記号が付与されています。与那国空港の場合、東側から進入する場合は「26番滑走路」、西側から進入する場合は「08番滑走路」になります（これは北海道の稚内空港と同じ滑走路番号です）。滑走路は一直線なので、両者の数値差は必ず「18」になるのです。今回は東（石垣島側）から着陸したので、「26番滑走路」を使用しました。

着陸直前には、東崎（あがりざき）の灯台、祖納（そない）の集落、沖縄独特の墓地、四畳半ビーチなどが見えました。それにしても、重い機体が高速度で接地する時、停止しているタイヤが衝撃を受けつつ、一瞬で高速で回転を始めるのに、よくパンクしないなあ、と感心してしまいます。

